



特定非営利活動法人 首里まちづくり研究会

住所 那覇市首里池端町34-2F(首里スタジオ内)

TEL 050-5309-5336

カテゴリ 地域の魅力発見／観光・地域交流

住民主体で進める、首里ならではのまちづくり

2005年にNPO法人化した当初から、龍潭通り沿線の景観について沖縄県建築士会首里支部と共に行政に提言を行ってきた首里まちづくり研究会(すいまち研)。以来、王都首里らしい風格とうるおいのあるまちをめざし、さまざまなシンポジウムやワークショップなどを行ってきた実績が評価され、2017年には那覇市で第一号となる景観整備機構に指定された。

2015年からは地元の養蜂園とのコラボで「首里ミツバチ花いっぱいプロジェクト」を開始し、ミツバチの生態を通して環境問題や緑化を考えるワークショップやまちあるきイベントなどを開催した。田場事務局長によると「同時期に始めた首里緑化まちづくりコンテストでは、花や緑でいっぱいの素敵な庭先や店先などの写真を公募し、オーナーや管理者を勝手に表彰しています」という。ユニークなコンテストだが、受賞者からは「先祖から受け継いだ庭なので、これからも大切にしていきたい」など前向きなコメントが寄せられ、緑化に対する住民の

モチベーションアップにはプラスになっている。2022年を目処に、表彰された地域をマップ化しHP内で紹介するという取り組みも進行中のようだ。

2019年の首里城火災は住民にも衝撃を与えた。すいまち研では再建・復興を叫ぶ論調の中にオーバーツーリズムに悩む視点がないことに危機感を持ち、他の地域団体と連携し、地域目線での提言書を取りまとめて沖縄県知事と那覇市長に手渡した。首里城公園を管理する沖縄美ら島財団とも連携し、観光客向けとは異なる、地域住民参加型のイベントも手がけている。「首里はもともとシビックプライドが備わっている地域。次世代に首里の文化を引き継いでいけるよう、50年後を意識したまちづくりを考えています」と田場事務局長は語る。



一般社団法人 渡名喜村観光協会

住所 島尻郡渡名喜村1917-3 **TEL** 098-996-3758

カテゴリ 地産地消・食育

もちきびを始めとした、渡名喜発の商品やサービスを多数展開中!

元々、渡名喜産のもちきびを使ったクッキーやお餅、ちんすこう等の商品は島内にあり、離島フェアや観光客にも美味しいと評判であった。しかし、渡名喜オリジナルの土産をもっと増やしたい、もちきびの活用方法が広がれば農家の生産意欲も向上するのではないかとこの考えから、新しい商品開発に向けて動き出すこととなった。

開発については、もちきびを用いたスコーンを提供している那覇の喫茶店オーナーに監修を務めてもらうこととなった。この方は、県が主催するモニターツアーで渡名喜島を訪れた際、もちきびと出会い興味を持ったのだという。

賞味期限や製造方法については無事クリアできたことになったため、売り出し方法やレシピを、監修元および生活改善グループらと模索し、継続して販売するための値段設定、材料調達方法、パッケージデザインなどを決定。役場職員や村長、村議員、住民の一部にも試食を実施し、意見をまとめ「もちき

び黒糖スコーン”そして、島の野草・ハマボウフウとチーズ入りの“島ハーブスコーン”を完成させることができた。

販売の際には新聞やSNS等で告知し、島内はもちろん、島外からも通販での注文が多くあったそう。

スコーンのおいしい食べ方や、特産品の活用に関する意見も島内外から活発に出ており、特産品そのものについて考える1つのきっかけにもなっているという。

今後は、島外の顧客をより増やしていくべく通販の活用方法をテコ入れする予定とのこと。また、スコーンの他にも、常温で保存できる商品がもっと欲しいという声もあり、島にんじんやフクギの葉で染色した製品作りや、体験ツアーについても着々と準備が進んでいるようだ。



久米島ホテルの会

住所 島尻郡久米島町字大田420

TEL 098-896-7100

カテゴリ 環境保全

久米島のホテルを守りたい! 15年続く子どもたちによる環境活動

久米島ホタレンジャーは、環境省のこどもホタレンジャー活動(小中高生が中心となって取り組む水環境保全活動を奨励し、優秀な取り組みを表彰するというもの。2018年をもって終了している。)の呼びかけに応える形で、2007年に7名で結成した。

土曜日の午前中に集まり、在来植物の生育や赤土の除去などホテルが住める環境作り活動を年間50回ほど行っている。その甲斐あって、活動の拠点である久米島ホテル館周辺には、活動当初ホテルは飛んでいなかったが、少しずつ姿が見られるようになり、活動が5年目を迎えた頃には沢山の数が飛び始めた。

2021年で15年目となる久米島ホタレンジャーには毎年新たなメンバーが加わっており、現在では幼稚園児から高校生までの総勢42名と、当初に比べると大きく成長した所帯となっている。

また、結成当初のメンバーも今では25歳となり、それ

ぞれが目指した場所で活躍中。リーダーを務めていた佐藤君は、茨城県の会社でSDGsを推進する仕事に就いているという。ホタレンジャーの活動で培われた地球環境を守りたいという心が、今尚育まれているのだろう。

人と自然のつながりの大切さを知ってもらうため、川や湿地の循環を再生できるアクティビティのプログラムも複数提供されている。人が川に入ることによって赤土が拡散し、酸素も行き渡り活性化するため、生息する生き物にとっても住みよい環境作りに繋がるのだという。

ホテル館の館長は、「地域の子もだけでなく、沖縄本島の子や修学旅行生にも是非、川遊びを楽しんでもらいたい、ホタレンジャーの環境活動を体験してほしいと思う。」と語ってくれた。



宜野湾市女性団体連絡協議会

住所 宜野湾市志真志1-15-22(人材育成交流センターめぶき内)

TEL 098-896-1215

カテゴリ 健康・福祉

学生等のサポートを受け、高齢者のスマホ教室を開催!

ICTに触れることなく仕事を引退した世代も、スマホ等に慣れ親しみ、人生100年時代を有意義に過ごしてほしいとの思いから、シニアのスマホ教室を企画。コロナ禍と時期が重なったこともあり、アルバイト先を失くした学生の雇用にも繋がればと、シルバー人材センターパソコン指導者に加え、沖縄国際大学の学生にもサポートしてもらうことに。

大学との接点は元々なかったが、宜野湾市・市民協働推進課の紹介で、地域の公民館でサークルの練習をしている彼らに連絡をとり、協力をお願いすることができたという。

4か月に渡り、週1ペースで開催した教室には、10名ほどのアルバイトが参加し、インターネットを使った検索機能や動画視聴、LINEのグループ通話などを手ほどきした。

参加者からは、「孫とLINEできるようになった」「何回やっても覚えられない」など様々な感想が寄せられたが、

皆楽しんで取り組んでいたようだ。

また、「勉強する場がない」「身内には遠慮して聞きづらい」といった声に応えるためにも、繰り返しの取り組みが必要であると感じるが、当初受託していた助成金も終了となり、どういった形で再開できるかを模索しているところだという。

ただ、総務省の方針もあり、スマホショップや行政もはや足で動き出している中で、「どの団体が取り組むことになっても、この活動が継続し普及していけたら嬉しい」と代表を務める崎原さんは語る。

今後も、地域活動や男女共同参画に係る啓発、市民と行政が手を結び合った街づくりにも積極的に参加し協力していきたいとのこと。高齢者、そして地域の元気のため、会の活動がどのように展開していくのか楽しみである。

